

Salon

Vol.107 2017年3月 春号



ホール3Fアーティストラウンジ内壁画 ホール・ギアマン作「馬とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — ジャパン・ストリング・クワルテット
03 Phoenix Presents — 福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバル ジョイントリサイタル
ザ・イマイ・ヴィオラ・クアルテット〜ヴィオラ・フェスタ〜
05 Pick Up — ホール音楽アドヴァイザーに聴く
06 Phoenix Spot — 2017年度おすすめ“presents”公演
07 Essay de say — 私と20世紀の音楽 稲垣 聡

3月17日 ザ・フェニックスホール最終公演を迎える弦楽四重奏団 ジャパン・ストリング・クワルテット

ジャパン・ストリング・クワルテットの(左から)菅沼準二さん、久保陽子さん、久合田緑さん、岩崎洗さん



日本を代表するヴェテランプレイヤーがつくる弦楽四重奏団「ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)」。ベートーヴェンの作品演奏を目的に1995年、結成され20年余。ザ・フェニックスホールには96年の初出演以来、ほぼ毎年のように来演してきた。とりわけ2008年からは弦楽四重奏の教育・啓発事業「Phoenix OSAQA(フェニックス・オーサカ 弦楽四重奏を志す若者のための自由塾)」講師として全国から大阪に集まった延べ64団体を指導、大阪・関西の音楽ファンに室内楽の醍醐味を伝えてきた。この事業は今年3月、10回目のシーズンで終了し、これに伴い、JSQの同ホールでの出演は3月17日(金)のマチネが締めくくりとなる。今回で出演は通算19回。フェニックスで演奏を刻んできた4人に、歩みを振り返ってもらった。

(取材・構成/谷本裕=沖縄県立芸術大学教授)

ジャパン・ストリング・クワルテット (Japan String Quartet/弦楽四重奏団)

1994年4月、ヴァイオリンの久保陽子と久合田緑、ヴィオラの菅沼準二、チェロの岩崎洗の4人は国際交流基金による日本文化紹介派遣事業の一環としてフランスと中近東を巡演、各地で好評を博した。この成果をもとに翌95年、「ジャパン・ストリング・クワルテット」の前身「クボ・クワルテット」を結成。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲の全曲演奏を目的に掲げて研鑽を積み、95年から3年間、計6回にわたり東京・津田ホールで定期公演を行った。演奏の様子がNHKで放映されるなど、多くの室内楽ファンの注目を集めた。2000年、ベートーヴェンの魅力の新しい発見を目指し、再び弦楽四重奏曲全曲演奏に挑み始めた。この活動を軸に、異なる作曲家の弦楽四重奏の名作にも取り組み、幅広い聴衆獲得にも努めている。あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールには1996年6月以来出演を重ね、2008年から弦楽四重奏の教育・啓発事業「Phoenix OSAQA(フェニックス・オーサカ 弦楽四重奏を志す若者のための自由塾)」講師を務めている。JSQの創設や活動展開に際して、上野製菓(本社・大阪)の上野隆三・前社長(故人)が積極的な財政支援を始め、ストラディヴァリウスのヴァイオリン、同チェロ、ゴフリラーのヴィオラといった銘器を貸与するなど、活動をバックアップし続けたことは特筆される。

「ソリストとアンサンブルの名手の融合」が持ち味 ですが、最初は苦労されたのでは。

久保 ベートーヴェンの作品をしっかり演奏すること。ソリストとしての私にこれは、重要なことでした。彼の後期作品は「弦楽四重奏でしか勉強できない」と考えていたので、このカルテットを組んだことは嬉しいことでした。ただ、このグループでベートーヴェンを初めて合奏した時は、私は結構、大変でした。4人それぞれ流儀があって音程は合わないし、解釈も異なっていました。初めての全曲演奏会を東京で始めた時、NHKテレビの収録が入って、インタビューまであり、緊張で息も出来ないほど本番が怖かった。舞台上上がって、向かいの菅沼先生を見たら、「岩」みたいにデンと構えておられた。「ああ、先生はカルテットの人なんだ」。その存在感で落ち着くことが出来、何とか乗り切れた。その後、いつ頃からか「JSQの響き」みたいなのが出来てきました。

岩崎 久保さんと僕は、日本で他のアンサンブルや外国人アーティストとも室内楽はやっていましたが、ベートーヴェンのカルテットの後期作品は演奏するチャンスがほとんどなかった。一方、久

合田さんと菅沼先生はもう随分、勉強していた。菅沼 第1ヴァイオリンに「色」が有って、チェロの存在感がしっかり有って、第2ヴァイオリンもヴィオラも各々の特徴を持っていて…。そんな演奏家が集まってこそ良い音楽が出来る。そこそこがカルテットです。昔のカルテットを聴いて、ずっとそう思っていました。その意味で僕は、ここに居る連中の個性が好きなんですよ。特徴がハッキリしている。個人的に弾ける人ばかり。しかも、それぞれが「皆で創る音楽」を感じて機敏に変わってくれる。何も言うことなかったですよ。

青春時代はカルテットをどう学びましたか。

菅沼 東京藝大の学生だった頃は、カルテットのきちんとしたカリキュラムはまだ無くて。でも、カルテットが好きな仲間が居て、学生だけで一生懸命練習して、学内演奏会とか学園祭で、もうやたら弾いてましたね。

久合田 同じ東京藝大でも、私が入った時代は、日本フィルのコンサートマスターだったルイ・グレラーさん(*1)が室内楽を教えてくださいました。

「ベートーヴェン」伝え20年

岩崎 桐朋学園の音楽教室時代は、室内楽クラスが全然なかったです。しかし、我々、久保さんや僕は、斎藤先生(*2)に言われてカルテットを組まされました。

久保 オーケストラで弾くにしても、弦楽器4本のアンサンブルは音楽の原点。そこをしっかりとやっておく必要がある。

岩崎 その点を斎藤先生はよく分かって、僕たちに「やれ」って言ってたんでしょう？だけど取り組んでる人は、他にあまり居なかったんじゃないかな。

菅沼 桐朋は、今も昔もソリスト志向の上手いのがいっぱいだからね。

久保 ヴィオラ専攻の人も居なかったし…。

4人とも音楽大学で教育にも携わっておられました。

菅沼 東京藝大で教えていた頃、15年くらい前ですかね、ソロ作品とオーケストラの練習と同様、室内楽を大事にしようと教員で話し合い、室内楽講座の教育システムを確立しました。それまでの学生は、好きな曲を好きな仲間とさらって、先生に指導を仰ぐ程度。それじゃいけないんで、例えば1、2年生はハイドンの初期作品やモーツァルト、上級になってベートーヴェン。(20世紀の)パルトークの作品は4年生になってから—という具合に段階を踏ませるようにした。随分、良くなりましたよ。でも当時は、「カルテットなんてやっちゃダメ。あなたは、そんなレベルじゃないんだから」なんて言う先生も、まだ居ましたね。

岩崎 欧米に比べると、日本の音大でのカルテット教育は遅れてたよね。室内楽を盛んにしようと姉(ピアニスト岩崎淑さん)と沖繩で音楽キャンプ(*3)を始めたのが1979年。若い演奏家が参加して「室内楽って楽しい」って気持ち始めた。その影響もあって、桐朋学園でも室内楽教育を進めることになっていった。ただ、カルテットに本格的に取り組むようになったのは90年代に入ってからだった。きっかけは…。

久合田 新世代のカルテットの影響じゃない？ アルバン・ベルクとか、グアルネリとか。

菅沼 東京カルテットが強烈だったよね。

久保 彼らの功績は大きかった。東京音大でも似たような状況。まず作曲家を限定して講義したり、演奏させたりするようになっていったけれど、本格的に手を付けるのは遅れてた。カルテットは学生時代に組んでも、メンバーのだれかが留学したら解散してしまう。日本では独立した仕事になりにくい。

久合田 アメリカだと、大学などがカルテットを雇ってくれる例もある。ジュリアード音楽院に留学した時、ジュリアード弦楽四重奏団のロバート・マン(初代第1ヴァイオリン)やラファエル・ヒリ

ヤー(同ヴァイオリン)が教えてくれた。そんな仕組みのお陰で、若いグループも将来の可能性を多少感じながら活動を模索できる。日本じゃそうはいかないもの。

岩崎 カルテットを一生やろうなんて、あの頃、誰も考えなかったんじゃないか。

そんな中、フェニックス・オーサカは始まりました。

岩崎 ザ・フェニックスホールは、関西でカルテットの演奏家や聴衆を育てようとした。ひとつの革新的な運動でした。ただ、指導を受ける学生が集まるのか、最初ちょっと心配した。

久合田 確かにあの時は「これは大変なことになった。若いカルテットをつくらなきゃ」と思った。私は、京都市立芸大で教えていて、この事業が立ち上がったのをきっかけに、同僚の先生と話し、カルテットの授業を新設した。古典派からロマン派まで、作品を段階的に弾き込む。大阪音大に移った後も、学生に「こんな事業が有るからカルテットで受けに行こう」と勧めたんです。学生が取り組む上での目標になり、底上げに繋がったと思っています。

題材は10年間、一貫してベートーヴェン。

菅沼 内声部一つとっても、第1ヴァイオリンやチェロと同様、第2ヴァイオリンもヴィオラも、すべてのパートが同等に力を発揮できるアートとして、音楽をつくってくれた。ベートーヴェンが、あんな素晴らしい作品を残したから、後世のブラームスにしたって、弦楽四重奏は3曲しか書けなかった。時代を超える「音楽のエッセンス」がベートーヴェンの曲には詰まってる、弦楽四重奏を教える題材は、これ以外は考えられませんでした。

学生同士の音楽づくりはどうでしたか。

久保 最初の頃は、演奏が出来上がって来てるなというグループは、なかなか無かったし、色んなことを教えてもらってるな、とか、結構知ってるな、という例も皆無でした。

久合田 「急ごしらえ」だと、調弦の音を聞いただけでグループとしての状態が概ね読めることもあったわね。

久保 ただ、お客さんを前にしたマスタークラスでは、一見おとなしいグループも、非公開のリハーサル(*4)では合奏をめくり、かなり踏み込んだ話をしてた。特に最近はそのよう。むしろ我々の方が、却って練習で何も言っていないのかしら、なんて思ったことも。

久合田 2日間指導を受けて、3日目に修了コンサートがあるから、短時間でしっかり意思疎通し

ないとダメだって、彼らなりに思うのよ。

岩崎 だんだん「進歩」してきたんだね。学校で弦楽四重奏のレッスン受けたり、フェニックス以外でも指導を受けたりで、意識が変わってきた。こういう教育事業の成果ですよ。

久保 練習方法も良くなった。何度も一つの音を一緒に出す。丹念に練習を重ねてる。

久合田 自分の演奏をしながらか他のパートを聴けるようにならなきゃいけない。フェニックスに来てから、そんな意識が生まれたのかも。

菅沼 ザ・フェニックスホールの響きの中で弾けるってこと自体、大きかった。フェニックス・オーサカという「場」が、実に良い経験になっていたと思います。

岩崎 やつぱり経験。我々も、最初の全曲演奏会でベートーヴェンを弾いた時と、2度目、3度目に同じ曲を弾いた時とは、大分違う音楽になった。演奏を重ねることで、響きの音色感とか、求めるものが変わってくる。若い人たちが、最初からそれを出る訳はない。スコア(総譜)を読み込み、お互いの役割を知って向き合うようになってきた。

久保 ただね、「演奏」っていうのは、とっても難しいものなの。なんていうか、「思い込み」が要ると思うのよ。4人が一緒になって思い込んだ音楽を、お客様に発信する。そこまでいくと「演奏」になるんだけど。でないと単に練習の延長で終わっちゃう。満足しないで「演奏」するってこと、心から音楽を感じることを大切に、歩いてほしい。

久合田 フェニックス・オーサカのお陰で、このホールは私たちのホームベースになりました。

岩崎 10年、よく続けてくださったと思う。

JSQ 長い間、本当にありがとうございました。

(*1) 1913-87。ニューヨーク出身のヴァイオリニスト。米国のNBC響コンサートマスターなどを経て来日。日本フィル、新日本フィルのコンサートマスターを務めた。

(*2) 斎藤秀雄。1902-74。指揮者・教育者・チェリスト。桐朋学園創設者の一人

(*3) 沖繩ムーンビーチ・ミュージック・キャンプ&フェスティバル。1979-96。沖繩本島中部の恩納村(おんなそん)のリゾートホテルで行われていた。

(*4) フェニックス・オーサカでは、聴衆に公開するマスタークラスのほか、リハーサル室などで非公開のレッスンが行われてきた。

「Phoenix OSAQA 10年—ジャパン・ストリング・クワルテット」公演は3月17日(金)午後2時開演。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第6番変ロ長調作品18-6ほか。前売券は完売。当日券の有無は前日16日(木)午後11時以降に電話でのお問合わせ、またはホームページをご覧ください。18日(土)19日(日)に公開マスタークラス(無料、入場券が必要)、20日(月・祝)午後3時に受講生修了コンサート(入場料500円)が開かれる。チケットのお問合せ・お申し込みは、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールチケットセンター TEL 06-6363-7999 (土・日・祝日を除く平日の10時~17時)



3月3日(金)
10:00 受付開始
ザフェニックスホール
友の会優先予約

3月6日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

3月7日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店によるお申込みは**3月8日(水)10:00**から!

■Kansai Soloists & Ensembles 21

2017年**8月26日(土)**

19:00開演 指定席
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)
学生¥1,000(限定数)

出演 福田進一
ホセ・アントニオ・エスコバル
(以上ギター)

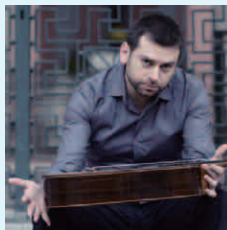
日本を代表するクラシックギターの最高峰と、南米出身の若手No.1ギタリストが競演!
Osaka Guitar Summer 2017 <福田進一と仲間たち vol.8>
福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバル ジョイントリサイタル

曲目 ハビエル・コントララス:3つの南米の小品 ピアソラ:ブエノスアイレスの四季より
レオ・ブローウェル:4つのマイクロピエサス(ダリウス・ミヨウ讃歌) ほかに予定 *プログラムは変更の可能性があります

毎年“夏”恒例となりましたクラシックギターの祭典。今年は大幅にパワーアップして開催いたします。大阪出身のマエストロ福田進一さんを中心に、チリ出身のホセ・アントニオ・エスコバルさんを迎えます。エスコバルさんは、チリやコロンビアなど、南米の作曲家の作品を多くのレパートリーとする一方、バッハなど、バロック・古典音楽にも精通する期待のギタリストです。また、新たなプログラムとして、関西の実力派ギタリスト達を講師に迎えてのギターアンサンブルのワークショップを開催いたします。お楽しみに。



福田進一(ふくだ・しんいち/ギター)
大阪生まれ。バリ・エコールノルマル音楽院を首席で卒業。1981年バリ国際ギターコンクール優勝。以後35年、ソロ・リサイタル、主要オーケストラとの協演、ウルグアイのギタリストE・フェルナンデスとのデュオをはじめとする超一流ソリストとの共演など、国際的な演奏活動を続けている。平成19年度外務大臣表彰。平成23年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。上海音楽院、大阪音楽大学、広島エリザベト音楽大学、昭和音楽大学客員教授。



ホセ・アントニオ・エスコバル
(José Antonio Escobar/ギター)
1973年チリ生まれ。チリ音楽大学を首席で卒業。ドイツのアウグスブルグ音楽大学でフランス・ハラス教授に師事。これまでに15以上の国際ギターコンクールで入賞し、世界各国で演奏活動を行う。ギターの上楽器による西洋の古典音楽の研究に携わるほか、ラテンアメリカのポップスや伝統音楽の研究にも携わり、多くの作品を演奏・録音している。

ギターサマー2017 フェスティバル コンサート(修了コンサート)

2017年8月27日(日) 17:00開演 自由席 一般¥1,500

※「福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバルジョイントリサイタル」のチケットをご購入の方は無料。(要事前申込み。定員200名になり次第、締め切らせていただきます。) ※学生券、友の会の割引はありません

出演 岩崎慎一、益田展行、猪居謙
公開マスタークラス受講生、
アンサンブルワークショップ受講生(以上ギター)



福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバルによる
ギター公開マスタークラス受講生募集

ギターアンサンブル
ワークショップ受講生募集

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2010年から日本を代表する国際的ギタリスト・福田進一氏のコンサートを軸にすえ、さらに福田氏の推薦により若きギタリストを育成する公開マスタークラスを行ってきました。2017年度も公開マスタークラスに参加する受講生を募集します。

ギターサマー新企画、ギターアンサンブルのワークショップを開催いたします。クラシックギターは一人で練習することの多い楽器ですが、この機会にアンサンブルに挑戦してみませんか?ご参加お待ちしております。

■講師 福田進一、ホセ・アントニオ・エスコバル(以上、ギター)

■講師 岩崎慎一、益田展行、猪居謙(以上、ギター)

■開催日程 2017年8月26日(土)、27日(日)

■開催日程 2017年5月24日(水)、6月14日(水)、
<全5回> 7月19日(水)、8月26日(土)、27日(日)

*公開マスタークラス受講生の方には、ギターサマー2017フェスティバル コンサートにもご出演いただけます。

*ギターアンサンブル ワorkshop受講生の方には、ギターサマー2017フェスティバル コンサートにもご出演いただけます。

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 5階リハーサル室

■募集部門 ソロ部門(4名)

■募集人数 10名程度

■応募資格 プロの演奏家を志望する、年齢30歳まで(2017年8月31日時点)のギタリスト。専門的教育を受け、また、コンクールに上位入賞するなど外部組織による高い評価を受けている者。

■応募資格 クラシックギター経験者で楽譜が読める方

■選考方法 応募資料等により、福田進一氏が選考します。

■選考方法 応募者多数の場合、抽選いたします。

■参加費 公開マスタークラスの受講料は無料。ただし、参加に伴う交通費や宿泊費、楽譜などは自己負担とします。

■参加費 「福田進一&ホセ・アントニオ・エスコバル ジョイントリサイタル」のチケットを2枚以上のご購入をお願い致します(学生券不可)。また、参加に伴う交通費や宿泊費、楽譜なども自己負担とします。

■応募締め切り 2017年6月19日(月)

■応募締め切り 2017年4月14日(金)必着

*詳細は、募集要項、当ホールホームページでご確認ください。

*詳細は、募集要項、当ホールホームページでご確認ください。

お問い合わせ
募集要項の請求

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール「大阪ギターサマー」事務局
TEL 06-6363-0211 FAX 06-6363-1124 E-mail concert@phoenixhall.jp URL http://phoenixhall.jp

■アンサンブル・ア・ラ・カルト61

2017年9月19日(火)

19:00開演 指定席

一般¥4,500(友の会価格¥4,050)

学生¥1,500(限定数)

今井信子の新しい挑戦。名手たちによるヴィオラだけの四重奏。

今井信子presents

ザ・イマイ・ヴィオラ・クアルテット〜ヴィオラ・フェスタ〜

出演 今井信子、ファイト・ヘルテンシュタイン、ウェンティン・カン、ニアン・リウ(以上ヴィオラ)

曲目 野平一郎:トランスフォルマシオン1 J・S・バッハのシャコンヌ〜4つのヴィオラのために〜

杉山洋一:子供の情景〜ヴィオラ四重奏のための(仮称・新作) バルトーク:44の二重奏曲より ほか(予定)

今井信子がヴィオラだけのクアルテットを結成。メンバーは、東京国際ヴィオラコンクールの入賞者であるファイト・ヘルテンシュタイン(2009年第1回第3位)とウェンティン・カン(2012年第2回第1位)、そして上海音楽院教授のニアン・リウという次世代を担う腕利きの音楽家たち。プログラムはヴィオラ四重奏の名曲、野平一郎編曲によるJ・S・バッハのシャコンヌのほか、今回のために杉山洋一がヴィオラ・クアルテットのために編曲するシューマンのピアノの名曲「子供の情景」、そして今井とカンのハンガリーでのフィールドワークを経て演奏されるバルトークの「44の二重奏曲」などを予定。



©Marco Borggreve

今井信子(いまい・のぶこ/ヴィオラ)

桐朋学園大学卒業。イェール大学、ジュリアード音楽院を経て、1967年ミュンヘン、1968年ジュネーブ両国際コンクール最高位入賞。1970年西ドイツ音楽功労賞受賞。これまでにベルリン・フィル、ロンドン響、パリ管、ボストン響等と、また室内楽ではアルゲリッチ、クレーメル、マスキエ、ミドリらと共演している。〈ヴィオラスペース〉の企画・演奏に携わるなどヴィオラ界をリードする存在として目覚ましい活躍をしている。2003年ミケランジェロ弦楽四重奏団結成。2011年4月よりザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザー。アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、ソフィア王妃高等音楽院各教授。上野学園大学特任教授。



ファイト・ヘルテンシュタイン(Veit Hertenstein/ヴィオラ)

ドイツのオグスブルク生まれ。ジュネーブ高等音楽院で今井信子に師事。2009年ヨーロッパ放送連盟新人コンクール(スロバキア)優勝。また同年第1回東京国際ヴィオラコンクール入賞。2007年オルフェウス・コンクール(スイス)優勝。2011年バーゼル交響楽団の首席奏者に就任。2014年スイス・アーツカウンシルの委嘱により作曲されたニコラ・ボレンスのヴィオラ協奏曲をジュネーブで初演した。ラ・フォルジュルネ、マルボロ、グシュタート・メニューインなどの国際音楽祭にも出演多数。ヴェルビエ音楽祭では「アンリ・ド・ラ・グランジュ」ヴィオラ賞を受賞した。ドイツ・デトモルト音楽大学教授。



ウェンティン・カン(Wenting Kang/ヴィオラ)

2012年第2回東京国際ヴィオラコンクール第1位。中国生まれ、北京中央音楽院在学中15歳でヴィオラへ転向。ニューイングランド音楽院にて、ガース・ノックス、キム・カシュカシアンに、クロンベルク・アカデミーで今井信子に師事。カーネギーホール(ニューヨーク)、ジョージタウンホール(ボストン)などで公演を行い、恩師カシュカシアンとアメリカ・ツアーで、マルボロ音楽祭では、今井信子(ヴィオラ)などと共演。近年ではフランクフルト放送響、マスキエ(チェロ)とシュトラウスのドン・キホーテのソロを担当。2016年は大阪と東京で無伴奏リサイタルを成功に導く。ソフィア王妃高等音楽院で今井信子のアシスタントを務める。



ニアン・リウ(Nian Liu/ヴィオラ)

ソリスト、室内楽奏者、そして教育者として中国の若手のなかでも最も活発な活動を行っている演奏家のひとり。上海音楽院、南カルフルニア大学ソーントン音楽学校に学ぶ。2001年サンタバーバラ・ヤング・ミュージシャンズ・コンクール、2003年ホランドーアメリカ音楽協会国際ヴィオラコンクールに優勝するなど国内外の数々のコンクールで入賞。これまでに室内楽でヨーヨー・マ、ミッシェル・マスキエ、ギル・シャム、五嶋みどりらと共演している。上海音楽院教授。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申し込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

<http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による
お申込み

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

2017年10月4日(水)

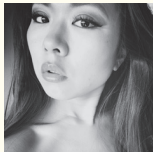
スペインの心を日本で~Alma Española en Japon~

19:00開演 自由席
 一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)
 一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)
 ※友の会割引は1会員2枚まで。

出演
 谷本綾香(メゾソプラノ)
 ホセマリア・ガジャルド・デルレイ(ギター)

曲目 フェデリコ・ガルシア・ロルカ:古いスペイン民謡集
 ホセマリア・ガジャルド・デルレイ:人生の歌曲集 さくら変奏曲

スペインを代表するギタリストで作曲家でもある、ホセマリア・ガジャルド・デルレイのギターと、ロンドンを拠点に活動するメゾソプラノ・谷本綾香の歌のコラボレーションを企画しました。彼が作曲した「人生の歌曲集」を披露。また、2014年に初めてコラボレーションをした後、谷本綾香のために作曲された「さくら変奏曲」も演奏予定。ヨーロッパでオペラを専門に学んできた谷本綾香とスペイン人ギタリストが日本ではあまり演奏されていないスペインの作曲家、フェデリコ・ガルシア・ロルカのギターと歌のデュオ曲も数曲ピックアップし、古いスペイン民謡と、ホセマリア作曲のクラシックでありながら根底にスペインのフラメンコ音楽の魂が感じられるフレッシュな音楽の風を、ぜひ日本の皆様感じて頂きたい。



谷本綾香(たにもと・あやか/メゾソプラノ) 三重県伊賀市生まれ。2005年国際バカロレア資格及び同バイリンガル資格を取得し、大阪インターナショナルスクールを卒業。同年に英国王立音楽大学声楽専攻に入学。2009年英国王立音楽大学学士課程を修了。2011年英国王立音楽大学大学院を修了。2012年から英国王立スコットランド音楽院オペラ研修所で奨学生として2年間の研修を受け、2014年にオペラ研修所を修了。2012年、イギリスのロングボロー・フェスティバル・オペラで「魔笛」に出演以来、ヨーロッパを中心に数々のオペラ公演に出演。2011年ロンドンで行われた第3回国際エルネスト・プロホココンクールで優勝をはじめ、第15回みえ音楽コンクール声楽部門大学・大学院生の部第1位、第19回日本クラシック音楽コンクール全国大会一般の部第3位(1位、2位該当者なし)など数々の賞を受賞。



ホセマリア・ガジャルド・デルレイ(José Maria Gallardo del Ray/ギター) スペインのセビリヤに生まれ、9歳でデビュー以来世界的に活躍しているギタリストであり、作曲家、指揮者である。パコ・デ・ルシアの大阪におけるデビュー(アランフェス協奏曲)では、テレマン・オーケストラを指揮した。近年では「バシオン・エスバニョラ(ラテン・グラミー 2008)でのブランド・ドミンゴ氏との共演、「ハバナ・ジブシーの歌」(2010)でのメゾソプラノのエリーナ・ガランチャ氏と共演。これまでにウィーン・コンツェルトハウス、カーネギーホール、東京サントリーホール、ロンドン・サドラーズウェルズ、カドガンホールをはじめ、数々の世界の劇場で演奏する。2004年には日本でギタリスト 村治佳織とのデュオ・リサイタル・ツアーを行っている。2005年、愛・地球博の際にはマヌエル・カニサーレス氏などと共に、各地でコンサートを開催する。

あいおいニッセイ同和損保が・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

発売中

協賛公演

ヴィオラスペース2017大阪

主催 テレビマンユニオン

2017年6月2日(金) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) U25¥2,500

(1992年以降生まれの方限定。公演当日、生年を証明できるものをご持参ください。)

出演 今井信子 曲目 武満 徹:鳥が道に降りてきた
 アントワン・タメスティ ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女
 小峰航一(以上ヴィオラ) フォーレ:夢のあとに
 小栗まち絵(ヴァイオリン) ラヴェル:序奏とアレグロ
 草冬香(ピアノ) ほか フランク:ヴィオラソナタ
 イ長調より 第1、2楽章 ほか

1992年、世界的ヴィオラ奏者・今井信子の提唱によりヴィオラを基調とする音楽祭「ヴィオラスペース」が誕生しました。「ヴィオラの礼賛」、「優れたヴィオラ作品の紹介と新作発表」、「若手の育成」を3本の柱に、毎年様々なプログラムに挑戦し続けています。今年のテーマは「フランス」です。フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルに代表されるフランス人作曲家だけでなく、武満徹などフランス文化に色濃く影響を受けた作曲家による作品まで取り上げます。本格的なフレンチ・プログラムをどうぞお楽しみください。



4/3(再)発売

協賛公演

第8回 ICEPネパール/日本 活動報告コンサート 五嶋みどり&Young Artists

主催 認定NPO法人ミュージック・シェアリング

2017年6月20日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥6,000(友の会価格¥5,400) ※友の会割引は1会員2枚まで。

出演 五嶋みどり(ヴァイオリン)
 ヘレミアス・セルジャーニ-ヴェラスケス(ヴァイオリン)
 ウェンボン・ルオ(ヴィオラ)
 マイケル・カツ(チェロ)
 曲目 ヒナステラ:弦楽四重奏曲 第2番 作品26
 ドヴォルザーク:弦楽四重奏のための「糸杉」B.152より
 シューベルト:弦楽四重奏曲 第14番 二短調「死と乙女」D810

ヴァイオリニスト五嶋みどりが理事長を務める認定NPO法人ミュージック・シェアリングでは、国内外の子どもたちに音楽の喜びを届ける様々なプログラムを実施しています。活動の一つ「インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム(ICEP)」では、五嶋みどりが若手演奏家とカルテットを組み、2016年12月はネパール、2017年6月は日本の子どもたちのもとを訪れ、本物の音楽を届けます。コンサートではカルテットによる弦楽四重奏をお楽しみいただきながら、ネパール・日本での活動についてご報告いたします。



発売中

協賛公演

福井敬スペシャルリサイタル2017 IN 大阪 「福井敬、黒田博。スペシャルな午後」

主催 福井敬.net

2017年6月24日(土) 14:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,500(友の会価格¥5,000) ※友の会割引は1会員2枚まで。

曲目 高田三郎:くちなし、寺島尚彦:さとうきび畑、中田喜直:木兎
 ジョルダノ:歌劇「フェドラー」より「愛さずにはいらぬこの想い」
 ピゼー:歌劇「カルメン」より「花の歌」
 ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より「私は町の何でも屋」
 ヴェルディ:歌劇「ドン・カルロ」より「われらの胸に友情を」 ほか

出演 福井敬(テノール)、谷池重穂子(ピアノ)、ゲスト/黒田博(バリトン)
 大阪での福井敬スペシャルリサイタル。今年は3年目の節目の年としてゲストをお招きいたします。京都出身のバリトン黒田博さんです。イケメン!男ふたりの激烈ガチンコ対決!!デビュー当時から共に歩んで来た黒田博さんとのコンサートは、必ずや皆様HAPPYになること間違いなしです。





©Marco Borggreve

今井信子氏
 (ヴァイオラ奏者)

音楽アドバイザー プロデュース公演 2017年度「いちおし」を聴く


伊東信宏氏
 (大阪大学教授=音楽学)

9/19(火) 3/7(火)一般発売

今井信子 presents

ザ・イマイ・ヴァイオラ・クアルテット
 ～ヴァイオラ・フェスタ～

ヴァイオラ・クアルテットを演奏したいと思っ
たきっかけは、以前に北海道で演奏した
ヴァイオラだけのアンサンブルです。高・中・
低と三声ある弦楽四重奏やオーケストラ
と異なり、全ての声部が溶け合った独特の
響きがするのです。メンバーはファイト・ヘ
ルテンシュタインさん、ウェンティン・カン
さん、ニアン・リウさん。いずれも演奏・教
育の両面で活躍する次代を担うヴァイオリ
ストです。ヴァイオラは奏者によって全く違
う音がします。人間の声に最も近いといわ
れる楽器であるだけに弾く人の個性がより
強く反映されるのかもしれませんが。豊かな
個性と感性を持つ彼らと共にどのようなハー
モニーが生まれるか、今から楽しみにして
います。

11/19(日) 5月発売予定

今井信子 presents

J・S・バッハ レクチャーコンサート
 ～バッハの時代と教会音楽～

大槻晃士さんとは彼が音楽司書長とバッ
ハ・アドヴァイザーを務めるアメリカのマル
ボロ音楽祭で知り合いました。バッハにつ
いて語らせたら右に出るものはいないほど、
三度のご飯よりもバッハが好きという方
です。彼を通じてバッハやバロック音楽につ
いて勉強すると、皆バッハをもっと弾きた
くなります。ルールでかみじがらめになる
のではなく、より自由に、人間的にバッハ
を理解出来るようになるからです。そして
何よりも彼のバッハへの愛に溢れるお話を
聞いていると、バッハが俄然身近に感じ
られてくるのです。音楽家にとってバッハ
は全ての基本、バッハを置いて先に進む
事はできません。難解と思われがちな
バッハの魅力、大槻さんを通じて是非感
じてください。

12/16(土) 7月発売予定

伊東信宏 企画・構成

モノローグ・オペラ
 「新しい時代」

2017年度は、三輪眞弘さんのモノローグ・
オペラ『新しい時代』再演に賭けていま
す。2016年12月に三輪さんの作品を集
めた公演を行いました。これもオペラ再
演を目指すプロセスの一つでした。私は
2000年に初めてこのオペラを観て以
来、ずっとこの作品に魅せられてきま
した。14歳の少年を唯一の登場人物
とし、オーケストラも序曲もない破格
の作品です。ここで提起された「信仰」
、「言葉」、「ネット空間」といった
問題群は、薄っぺらな「正義」や「正
統性」が猛威をふるう現代にあつて、
ますます重要性を増しているように
思われます。この作品がいま、私
たちの社会にあつてどのように響
くか、皆さんと一緒に見届けたい
と思います。

夢の公演、募集中。大阪・梅田 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ


2018年6・8・11月／2019年2月 ホール無料提供
あなたの公演プランを舞台で実現してみませんか？

当ホールが公演企画を公募し、審査で選ばれた企画者にホールや付帯施設(基本費)を無料で提供します。併せてホールスタッフが公演開催のお手伝いもする公演共催事業です。企画者には公演開催のための様々な仕事に取り組んでいただき、ホールは共催の立場で支援を致します。芸術性やアイデアに恵まれながらも、発表の機会をなかなか得られずにいる国内外のアーティストの方々からの、ユニークな企画をお待ちしています。

●ホール提供日
2018年6月9日(土)、8月8日(水)、11月14日(水)／2019年 2月16日(土)
●対象

プロ・アマチュア・ジャンル・年齢 問いません。 学生の方や、海外在住の方も歓迎いたします。

●審査基準

 ◇ 企画内容が明確で、高い音楽性を備えている ◇ 室内楽ホールに適し、かつユニークである
◇ この公演を機会に発展が期待される

●選考アドバイザー

当ホールが委嘱する音楽評論家・新聞記者・研究者の方々(5名)

●特典

公演後、当ホールを利用される場合には、ホール協賛公演としてホール使用料金の特別優遇制度が適用されます。

●応募方法
①応募用紙 ②音資料(CD) ③過去の公演パンフレットなどの資料
④映像資料(DVD/映像・画像を使用する公演のみ)を揃えて、郵送または直接事務局までご提出ください。

●応募締切
2017年6月19日(月) 18:00 必着
●審査結果

2017年9月初旬頃、郵送で通知します。

●資料請求・応募先

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ企画募集」事務局

TEL 06-6363-0211 FAX 06-6363-1124

E-MAIL concert@phoenixhall.jp

 HP <http://phoenixhall.jp/>

私と20世紀の音楽

—稲垣 聡



Keizo Matsui

大学教員になって早くも十?年になるが、各関係機関等に自分の専門分野を記載しなければならない事がある。私の場合『20世紀の音楽作品』となるのだろうか。俗に言う“ゲンダイモノ”である。確かに私がステージで演奏する楽曲の多くは近現代作品で、それについて世間では何の疑問も持たれないだろう。しかし今でも時々「何で自分は20世紀作品を弾いているのか?」ふっと頭によぎる事があるのだ。なぜなら私は自らの意志で『20世紀の音楽』を弾いていこう!!と思うことが一度も無いからである。

話は数十年前に遡る。私が中高生の頃、某国営放送局のFMはクラシック音楽番組が豊富で、数多くの楽曲に触れることができた。そんななかで20世紀の音楽も例外ではなく「こんなものもあるんだ」と何の抵抗も無く受け入れていたようである。その後、大学ではなぜか作曲専攻の友人が多かったこともあり、彼らの作品や20世紀の作曲家の楽譜・音源を見聴きするなど、創作の世界を垣間見ていた気がする。が!しかへ!!興味がある≠演奏するは大違い!!「20世紀の作品を弾くなんて絶対無理!!」そう思っていた。メシアンなんぞ(!?)弾いている学生を見ると「宇宙人?」に思えたほどである。大学3年のある日、大学内を歩いていると作曲の同級生が竜巻の如く近づいて来て「お願い!!弾いて!!」と楽譜を渡された。楽譜はその人の新作で近く学内演奏会で初演するものの、演奏予定だったピアノの学生に逃げられたらしい。その人は笑顔ながら!眼は笑ってない!!あまりの殺気に負け!!!私はその作品を弾く事となる(この人言うまでもなく女性です)。一度引き受けると他からも頼まれるというのが世の常。『何事も経験』と思い何度か新作初演を行ったが、その後周囲から「現代モノのスペシャリヤ…」などと囁かれる様になり危険を察知、ある種の固定概念を恐れ一旦は現代作品から離れた。フランス留学中も「0から基礎をやり直す。だから音楽院在籍中は現代作品を弾かない!!」と硬く心に誓った!!!!はずだった…。

某日本人作品のバリ初演、音楽院で師事していた先生の策略(圧力!?)と奥様の援護射撃(温和な奥様が旦那の

ためなら鬼と化す!!)で当時院長だったジルバール・アミ氏の最新曲をリサイタルで弾くこととなる。しかし、その日本人作曲家もアミ氏も私の演奏を快く喜んで下さった。その後、徐々に現代作品の仕事が増え始め現在に至る…。その当時、私は20世紀の作品を弾くのが決して嫌なわけではなかった。長い年月を経て価値付けられていく作品もあれば、自分がいま生きている同時代に生まれた新しい作品の未知なる音の世界に、何とも言えない素晴らしさと感動があったのも事実。だが、この分野の知識が豊富なわけでもなく、本当に自分に向いているのか、また様々な時代の作品に接していきたい、何より20世紀という偏ったイメージの定着も怖かったのだろう(実際、私が作曲出身と思われていた時期もある)。そんな私が三十路を迎えた頃、某女流ピアニストがこんな事を言った。「言語と一緒によ。一つの言語が話せるようになって理解できてくると、他の言語も同じように観えてくる。私から見てあなたは『20世紀の音楽』という言語が一番合っている。だったら一度そこに身を投じることで、別の時代の言語も見えてくるんじゃない?」確かに薄々感じていた事ではあった。20世紀の音楽は突然変異ではない。西洋文化における音楽芸術の長い歴史とその推移を経た一つの枝葉に過ぎないのである。それを境に20世紀や、バロックから近代までも少しずつ観え方に変化が生じてきた。思えば今までどれ程の新作を演奏してきたのだろう。おそらくは自分でも気付かない潜在的な部分で、20世紀の音楽に魅入られていたのかもしれない。作品を通じて素晴らしい作曲家や演奏家と巡り逢えたことも幸運だった。また優れた作品は、演奏家を媒体として自らの力で光り輝く瞬間があるのだ。

これからも様々な時代の作品、そして20世紀の作品を弾いていこう。何歳まで弾けるのか…。そう、さほど遠くない『THE!還暦!!』記念でコンサート・シリーズを考えている。その一つに『21世紀の作品によるリサイタル』。

会場はもちろんザ・フェニックスホール!!

稲垣 聡(いながき さとし)/ピアノ奏者

滋賀県立石山高校音楽科を経て桐朋学園大学卒業、フランス国立リヨン高等音楽院大学院修了。東京現代音楽祭室内楽コンクール(競奏1)入賞、第4回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第1位・特別賞、滋賀県文化奨励賞受賞。国内各地でのリサイタルなどソロ活動をはじめ、内外のアーティストとの共演などアンサンブルピアニストとしても活躍している。現代音楽の分野では多くのフェスティバルに出演や、新作初演など数多くの現代作品を手掛け国内外より高い評価を得る。これまで東京響、東京フィル、新日本フィル、桐朋学園オーケなど共演。現在アンサンブル・ノマドのメンバー、相愛大学音楽学部教授。



©相愛大学

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2017年3月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 吉元 晃
デザイン 松井桂三 有限会社

